

妊娠

と

風

し

ん

佐賀大学医学部産科婦人科学助教 田中智子先生

Q1

風しんってどんな病気？

◆ 風しんウイルスが感染者の飛沫（唾液のしぶき）などによって他の人につります。

◆ ウイルスの排泄期間は症状出現の前後約1週間です。

◆ 主な症状は発疹、発熱、リンパ節の腫れです。感染しても症状の出ない人が約15%います。

◆ 通常は自然に治りますが、稀まれに関節痛や脳炎、血小板が減少し皮膚に紫斑が現れる人もいます。

◆ 一度なったら2回感染することとはほとんどありません。



Q2

妊婦が風しんにかかるとよくないの？

◆ 妊婦（特に妊娠20週まで）が感染し、赤ちゃんが先天性風しん症候群になることがあります。

◆ 先天性風しん症候群では耳が聞こえにくくなる、心臓に奇形が生じる、目が見えにくくなる、精神や身体の発達に遅れが生じるなどの障害を持つ可能性があります。

Q3

風しんはどう予防すればいいの？

◆ 予防接種を受けましょう。受ける時は麻しん風しん混合ワクチンをお薦めします。

◆ 20〜40代は男女ともに約15%に風しんの免疫がない、

または不十分です。特に昭和54年4月2日〜平成7年4月1日生まれの男女は接種率が低く、昭和54年4月1日以前生まれの男性は子供の頃に定期接種のチャンスがなく、予防接種が望まれます。

◆ 妊娠を計画する人だけでなく、その周囲の家族も風しん罹患歴や予防接種歴を調べましょう。

◆ 予防接種後2ヶ月は避妊をしましょう。

Q4

妊娠中に予防接種は受けられるの？

◆ 妊婦自身は風しんの予防接種を受けることはできません。妊娠初期の風しんH-I抗体価が16倍以下の場合、再感染の可能性があるため、産後すぐに予防接種を受けましょう。授乳には影響ありません。

◆ ワクチン接種後に妊娠が判明しても、過去に蓄積されたデータによれば障害児の出生は1

例もなく、妊娠を中断する理由にはなりません。

Q5

家族に妊婦がいる場合、風しんの予防接種を受けてもいいの？

◆ 風しんワクチン接種後3週間以内に、接種した人の喉のどから一過性にワクチンウイルスの排泄が認められることがありますが、周囲の人に感染したとの確かな報告はありません。接種を受けていない家族が自然感染し、そこから妊婦が感染するリスクの方が高いと考え、予防接種を薦めすすめます。

Q6

風しんにかかってしまったら？

◆ 風しんを疑う症状を認めたら、感染を周りに広げないように自宅で休み、速やかに医療機関に相談しましょう。

◆ やむを得ず外出する際には、マスクを着用し、できるだけ人混みを避けましょう。